

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700066		
法人名	ケアネット・ジャパン		
事業所名	ケアネットホーム白金 1階		
所在地	名古屋市昭和区白金1-20-3		
自己評価作成日	平成29年1月5日	評価結果市町村受理日	平成30年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2390700066-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2390700066-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かねてビル2階		
訪問調査日	平成30年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気や大切にしている。利用者一人一人の個別対応を心掛けている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設5年目を迎えた木造2階建ての趣のある事業所は、住宅や商店が立ち並ぶ一角に位置している。児童館や保育園に隣接し、近くに公園や小学校、お寺や神社、町工場もあり昔の風情が感じられる。「人としての尊厳と喜びを」理念として職員で日々のケアにつて考え気持ちを合わせ、入居者に沿った支援に努めている。入居者の「今」を大切に、レクリエーションや食育活動に力を注ぎ楽しく参加できるように工夫をしている。新聞広告折り込みなどで、事業所のイベントなどを、地域へ向けて情報を発信し交流を拓いている。太鼓演奏や流しそうめん、バーベキューなど地域の人と一緒に楽しみ積極的に関わりを深めている。また、「故郷訪ツアー」では、99歳の方の記憶を辿って故郷を訪れ、昔の懐かしい人や風景に出会い涙されるような体験もしている。名所や神社巡り、柿や苺、葡萄狩り、家族の協力を得て一泊旅行など楽しんでいる。書き初めや餅つき、季節行事の食事づくりなど、これまでの生活経験の継続も職員に支えられ楽しみながら行っている。リビングで皆とジャズダンスやゲームをしたり、気の合う同士でお喋りをしたりテレビを見てのんびりと過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人としての尊厳」という会社の理念に基づいたサービスの提供。管理者と職員の関係は常に風通し良く相談を受けれるようにしている。「日報」を職員は毎日記入し悩みや1日の現場の様子や困難だったことを管理者につたえていく。	事業所理念は玄関に掲示してある。入居者が心身ともに健やかに過ごせるよう職員一人ひとりが入居者に寄り添い、笑顔で感謝の気持ちを持って接するようにしている。毎朝の朝礼で唱和をするとともに行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事を行うときは地域に働きかける。新聞への記事の掲載や地域の機関紙に行事報告をとりあげていただいている。近隣の喫茶店へでかけることで対外的にも施設の生活や利用者様の様子を地域にアピールしている。	町内会に加入し、管理者が町内の組長のため地域と持ちつ持たれつ関係を築いている。地区の祭礼や敬老会、幼稚園、小・中学校の行事や文化祭、防災訓練などに参加している。新聞や地域の機関紙に事業所情報の折り込みを入れPRしている。餅つき、流しそうめんなど事業所の行事にはボランティアや地域住民が訪れ入居者と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に地域の方を招待したり地域の保育園との連携や学校の行事も参加させていただいている。掲示板に利用者の作品を展示し認知症の方でもできるんだということを発信している。施設の駐車場でバーベキューや干物パーティを行い地域の方とのコミュニケーションをとる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に施設の評価をしていただき改善すべき点を常に考えている	入居者、家族、地域代表、区制協力員、社会福祉協議会職員、他施設の介護職員の参加を得て年6回実施している。活動や運営状況などを報告し、要望や希望などは形式に捉われず自由に情報交換をしている。提案等は現場で検討したり、職員会議などで協議し運営に活かしている。案内は全家族に毎月の通信で知らせ、参加できなかった家族には、年1回の家族会で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上疑問におもったことは市町村へ連絡相談をしている	運営推進会議に役所の担当者が参加し、情報やアドバイスを得ている。担当者とは電話や直接出向き、事故報告やサービスの内容などを伝えたり、代行申請などで良好な協力関係を深めている。管理者は「認知症サポーター養成講座」の講師として依頼もある。職員は、市主催の研修会にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は窓のかぎやフロアと玄関ホールの境の施錠はおこなわない。来客も気軽にうけられるようにしている。やむをえずベットの柵をつける等拘束時は家族の同意をえ理解をえている	身体拘束のマニュアルを通して意識を高め、束縛感のない環境づくりに努めている。「禁止や指示」など不適切な言葉がけには、職員相互で言葉使いのチェックをしながら意識の向上を図っている。玄関は、夜間のみ施錠を行い昼間は、職員の見守りや声掛けをしたり、小鳥の鳴き声のセンサーや鈴の音で対応しながら、自由な行き来を阻まない様に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者様の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の様子の把握、利用者様に対する声かけ接遇に気を付ける		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の状態の観察や思いを大切にしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を使用し説明をする		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催、家族様の訪問時は現在の状態を説明したり意見をうかがう、通信を毎月家族あてに送ると同時にスタッフから個別の連絡帳を送り1か月間のご様子を家族に伝えている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは訪問時や運営推進会議、年1回の家族会などで意見や要望を聞きケアや業務改善に役立てている。毎月の白金通信や1か月間の個別記録を発行し家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回の全体会議、2週間に1回のフロア会議、個別のカンファレンスで情報を共有する	日常の業務の中や毎朝の申し送り時、フロア会議や全体会議などで提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。職員は毎日、自分専用の「日報」に、意見や提案、悩みなどを記載し管理者に伝え、管理者は1週間ごとにコメントで職員に返している。年2回の人事考課時に個人面談を行い、業務の改善や処遇に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に2階の人事考課を法人としておこなう		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部内部の研修会へ職員を参加させる。他施設の見学を積極的におこなう		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会への加盟や定期的な勉強会、交流会へ参加をしていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人面談での情報収集。家族との連携でご本人様の理解をしていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の様子を月1回通信で家族に報告。個別にスタッフから1か月の様子を知らせる連絡表を送る。ブログを作成し日々の生活を周知している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院からのサマリーや本人面談で本人の健康状態や生活を把握する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の重視。レクリエーションをたくさんおこなう。食事はスタッフも一緒にとっている。1ヶ月1回の全員外出でスタッフと利用者は日常と異なる時間を過ごしたのしんでいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問時はあいさつや状態報告をする。施設の行事に家族様も参加できるよう声かけをしていく。病気や事故の報告を迅速詳細におこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの家具や調度品、写真等をおもちゃだくふるさとたづねてツアーノ開催や四観音めぐりや寺社もうで、正信偈の開催で寺社詣でやお経を読んだりお坊様の説法をしていただいている。	入居者のこれまでの生活歴を把握したり、家族から情報を得て、今までしてきた生活が継続できる支援を目指している。入居者の記憶を辿って故郷を訪れる「故郷訪ねてツアー」や、寺社や名所巡りなど昔の懐かしい場所や風景に巡り合える機会を継続して行っている。近くの喫茶店や買い物など新しい馴染みの関係作りや、古来の行事や習わし、パチンコやチンドン屋などを通して、これまでの体験や馴染んできたものとの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションへの声かけ、トラブル時はスタッフがあいだにたつて円満な共同生活をしていただく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に対しても、訪問や見舞をしていく、死亡された方の通夜へもうかがう		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の生活を大切に。利用者の要望をうかがっていく	日常の入居者との関わりの中で表情などからくみ取ったり、入浴時や足浴、夜間リビングなどで話したり、ケアの中から感じ取ったことを職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、寄り添ってタイミングを見計らって意向を判断したり、家族と情報を共有し一緒に支えていく努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や習い事の話をおうかがう。今までの生活状況の把握をする		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族から経歴や生活歴をおうかがう。いままでの生活パターンや生活の維持につとめる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者との会話を大切にする。家族に毎月の通信や手紙で施設の様子を伝える。介護計画を家族に送付し確認署名捺印していただいている。	毎月家族に一人ひとりの日々の様子を連絡表に記入して知らせている。外出記録や介護日誌を参考にカンファレンスを行い職員全員で話し合い検討して、3か月に1回介護計画の見直しを行っている。家族に内容を説明し同意を得ている。変化のある場合は随時見直しをしケアに繋げている。どの職員も記録内容を共有し、入居者の状態を把握して同じケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の排泄や食事量を記録し申し送りや記録を残す利用者の様子等の情報を共有しサービスの共有化		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望をつねに集めニーズをみつけていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の団体(町内会、敬老会)に加盟。近隣のコンビニの回転時には全員で粗品をもらいにいった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に2回の主治医の往診。眼科、歯科の往診。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科は月2回の往診、眼科は月1回、耳鼻科は2ヶ月に1回耳垢取り、歯科は週1回の訪問診療がある。鍼灸マッサージ治療院は、直接家族と契約し施術している。訪問看護師が週1回来訪し健康管理に努めている。身体状況に変化があった時や緊急時は、24時間体制で提携医や協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。受診に関わる情報や取り扱い、職員間で確認しながらケアしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に電話での相談、訪問受診		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を決める、入院、受診での医療関係との光な連絡相談		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針の作成。同一法人の施設、多施設との連携	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにしている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は早めに家族に報告し、状況を説明している。医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者の状態に合わせてその都度、病院への受診や他の施設の紹介など最善の援助ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変マニュアルを周知。主治医や家族との連携		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施火災報知器等器具の点検。地域防災訓練への参加。防災訓練には地域の消防署の方に来ていただいて消火器の操作をしようしていただく。備蓄品の購入を障害施設へいきおこなった。掲示板に備蓄品の場所を掲示	年2回消防署員立会いの下、夜間を想定した避難訓練を実施している。消防署員から指導や助言を受け、より安全に避難誘導できるよう話し合いを重ねている。災害時には事業所を開放し被災者の受け入れも可能であり、地域住民との協力体制も整っている。備蓄品は3日分の水や食料等が用意され、リストにより管理し保管場所等記載して玄関に掲示している。また、地域の防災訓練にも参加している。	災害時の避難経路や安全確保のために、避難動線を妨げないようリビングの机などの物の配置や避難場所となるテラスに物を置かないなどの工夫を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室。入浴は個別対応。目上の方だという節度あるこえかけ。排泄時の見守りはカーテン越しに安全を確保している。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重した声掛けや目線に配慮した支援を心掛け、より良く過ごせるよう努めている。職員は、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使いなどに気を付け、不快にならない言葉使いや対応をするよう確認し合い支援するように心がけているが、職員全員対応に差がある。	日々のケアで常に言葉遣いなど注意をしているものの、ふとした気の緩みや癖から出てしまう言葉やしぐさなどにも配慮した支援に心がけ、普段からスピーチロックの習慣を職員全員で注意喚起されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択、おやつ、食事の選択。自己決定を大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にしている。食事時間以外の食事の提供や食事量も個別対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の気持ちを大切にしている。声かけをしっかりとる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お弁当やバイキング、普段の食事提供とは異なる食事をおこなう。玄関前の駐車場を活用しバーベキューや干物パーティ流しそうめんをおこなう。	食材とメニューは業者委託となっているが、「家庭の味を大切に」を基本に毎食手作りで提供している。事前準備や後片付けはその人の能力に合わせて職員と一緒にやっている。献立によっては、バイキング形式にしたり割り子のお弁当に詰めたり五感を意識した豊かな食事を提供している。お天気のいい日には、庭先でお茶会やランチ、バーベキュー、流しそうめんなどをしたり、外食やおやつ作りなどして楽しみ、職員も一緒に食卓を囲み楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外におやつ時は必ず水分摂取をしていただき適宜声掛けで水分ほぎゅうしていただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケア。週1回の歯科衛生士による口腔ケア、ポリデントの使用で入れ歯の衛生管理		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	病院でおむつだった方もトイレでの排泄ができるようトイレ誘導 声掛けでトイレへ行っていただき排泄チェックをつけていく	座位での排泄支援に心がけている。排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、声かけやタイミングなどを工夫し、仕草や表情なども見逃さないよう「オムツ0」を目指して支援をしていくように努めている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にし、丁寧な見守りの支援を行っている。	布パンツで過ごされる入居者が多い中、特に食後のトイレ利用について「トイレを待たせない、我慢させない、失敗させない配慮」など職員で話し合い検討することが望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄間隔の把握、未排便チェック。薬にたよらない食事等での排便をうながす。1週間に1回は全員朝に牛乳を飲んでいただく		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤をいれたり、ゆず湯やしょうぶ湯といった季節感をとり入れた入浴。入浴の順番を考慮	入浴は週に2回を目途に個々に合わせた入浴を支援している。状態によっては、清拭やシャワー、足浴など臨機応変に対応している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。湯の清潔や冬季のヒートショックに配慮し、季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯を楽しんだり、入浴剤を利用したりしてゆっくりと入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションの強制をしない。個々の生活を大切に昼寝等希望のある場合休んでいただく		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬確認を二人でおこない毎日のチェック。薬内容を職員一人一人が理解。調剤薬局との連携		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを取り入れ洗濯たみ、食器拭き簡単な調理の手伝いをさせていただく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を積極的におこなう外でのおやつや散歩をおこなう。果物狩り神社詣で海へ行く等今まで普通に経験されていたことをおこなう。工場見学などはじめての経験と言われることも積極的に遊びをとりいれている。	公園や児童館、幼稚園や小学校、寺社が近くにあり、安全で気軽に散歩に出掛けられる環境にある。月1回の外出レクで四季折々を感じながら、柿、苺、葡萄などの果物狩りや神社巡り、新舞子の海などに出掛けている。家族の協力を得て県外の温泉に宿泊したり、昔の記憶を辿って故郷ツアーに出掛けたり、入居者一人ひとりの思いが反映できるような支援に努めている。ヤクルトや森永など、未経験であった工場見学など新しい体験を積極的に取り入れている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本所持されないように家族に依頼する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用許可や手紙を書かれた時、郵便局へ同行		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに季節感のある調度品を制作し飾る。掲示板の活用。写真をたくさん掲示し会話の助けとする	居間は、テラスの掃出し窓から採光が入り明るく風通しが良く家庭的な雰囲気になっている。対面式のキッチンから入居者の動きや気配がよく見渡せ、食堂と居間がワンフロアの開放感がある共有スペースになっている。季節に応じた作品や行事の写真が飾られ会話の話題となっている。居間では、懐かしい歌を歌ったり、体操やゲーム、イベントに元氣よく参加したりして楽しんだり、テレビを見たりして思い思いにのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲のよい利用者がはなしあえるような席の配置。個々のお気に入りの場所やテレビ番組等を職員が理解していく		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度を置く。写真を飾る	居室は、使い慣れた筆筒や鏡、テレビなど馴染みのものを持ち込み、安心できるスペースや環境作りをしている。今までに作ったパッチワークの作品を飾ったり、自分の作品や写真を飾ったりしている。カーペットや畳を敷いて本人が自宅と変わらず自分らしく安心して生活が送れるような支援をしている。職員と一緒に掃除をして清潔保持と安全に配慮して心地よい生活空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの取り付け安全確保。常に利用者様を見守り転倒のないようにする		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390700066		
法人名	ケアネット・ジャパン		
事業所名	ケアネットホーム白金 2階		
所在地	名古屋市昭和区白金1-20-3		
自己評価作成日	平成29年1月5日	評価結果市町村受理日	平成30年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2390700066-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2390700066-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かねビル2階
訪問調査日	平成30年3月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的な雰囲気を大切にする。利用者一人一人の個別対応を心掛けている。施設に居ると思えない場所を提供

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設5年目を迎えた木造2階建ての趣のある事業所は、住宅や商店が立ち並ぶ一角に位置している。児童館や保育園に隣接し、近くに公園や小学校、お寺や神社、町工場もあり昔の風情が感じられる。「人としての尊厳と喜びを」理念として職員で日々のケアにつて考え気持ちを合わせ、入居者に沿った支援に努めている。入居者の「今」を大切に、レクリエーションや食育活動に力を注ぎ楽しく参加できるように工夫をしている。新聞広告折り込みなどで、事業所のイベントなどを、地域へ向けて情報を発信し交流を拡げている。太鼓演奏や流しそめん、バーベキューなど地域の人と一緒に楽しみ積極的に関わりを深めている。また、「故郷訪ツアー」では、99歳の方の記憶を辿って故郷を訪れ、昔の懐かしい人や風景に出会い涙されるような体験もしている。名所や神社巡り、柿や苺、葡萄狩り、家族の協力を得て一泊旅行など楽しんでいる。書き初めや餅つき、季節行事の食事づくりなど、これまでの生活経験の継続も職員に支えられ楽しみながら行っている。リビングで皆とジャズダンスやゲームをしたり、気の合う同士でお喋りをしたりテレビを見てのんびりと過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は常に業務の把握をし改善すべき点を指摘している。事業所の理念を念頭に常においている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事を行うときは地域に働きかける。新聞への記事の掲載や地域の機関紙に行事報告をとりあげていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に地域の方を招待したり地域の保育園との連携や学校の行事も参加させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に施設の評価をしていただき改善すべき点を常に考えている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上疑問におもったことは市町村へ連絡相談をしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は窓のかぎやフロアと玄関ホールの境の施錠はおこなわない。来客も気軽にうけられるようにしている。やむをえずベットの柵をつける等拘束時は家族の同意をえ理解をえている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の様子の把握、利用者様に対する声かけ接遇に気を付ける		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の状態の観察や思いを大切にす る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を使用し説明を する		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催、家族様の訪問時は現在の 状態を説明したり意見をうかがう		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回の全体会議、2週間に1回のフ ロア会議、個別のカンファレンスで情報を 共有する		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に2階の人事考課を法人としておこなう		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部内部の研修会へ職員を参加させる。他 施設の見学を積極的におこなう		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会への加盟や定期的な勉強会、交流 会へ参加をしていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人面談での情報収集。家族との連携でご本人様の理解をしていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の様子を月1回通信で家族に報告。個別にスタッフから1か月の様子を知らせる連絡表を送る。ブログを作成し日々の生活を周知している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院からのサマリーや本人面談で本人の健康状態や生活を把握する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の重視。レクリエーションをたくさんこなう。食事はスタッフも一緒にとっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問時はあいさつや状態報告をする。施設の行事に家族様も参加できるよう声かけをしていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段使いなれた食器等を入居時おもちいただく。なじみの家具や調度品、写真等をおもちいただく		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションへの声かけ、トラブル時はスタッフがあいだにたって円満な共同生活をさせていただく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に対しても、訪問や見舞をしていく、死亡された方の通夜へもうかがう		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の生活を大切にする。利用者の要望をうかがっていく		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や習い事の話やうかがう。今までのせいやくつ状況の把握をする		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族から経歴やせいやくつ歴をうかがう。いままでの生活パターンや生活の維持につとめる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者との会話を大切にする。家族に毎月の通信や手紙で施設の様子を伝える		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の排泄や食事量を記録し申し送りや記録を残す利用者の様子等の情報を共有しサービスの共有化		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望をつねに集めニーズをみつけだす		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の団体(女性会、町内会、敬老会)に加盟		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に2回の主治医の往診。眼科、歯科の往診		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に電話での相談、訪問受診		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を決める、入院、受診での医療関係との光な連絡相談		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針の作成。同一法人の施設、多施設との連携		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変マニュアルを周知。主治医や家族との連携		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施火災報知器等器具の点検。地域防災訓練への参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室。入浴は個別対応。目上の方だという節度あるこえかけ		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択、おやつ、食事の選択。自己決定を大切にする		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にする		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の気持ちを大切にする。声かけをしっかりとる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お弁当やバイキング、居酒屋レクをする。外食や施設の素とでのおやつ		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の水分チェック表を作る。希望時には水分を提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケア。週1回の歯科衛生士による口腔ケア、ポリデントの使用で入れ歯の衛生管理		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	病院でおむつだった方もトイレでの排泄ができるようトイレ誘導		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄間隔のはあく未排便チェック。薬にたよらない食事等での排便をうながす		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤をいれたり、ゆず湯やしょうぶ湯といった季節感をとり入れた入浴。入浴の順番を考慮		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションの強制をしない。個々の生活を大切に昼寝等希望のある場合休んでいただく		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配役確認を二人でおこない毎日のチェック。薬内容を職員一人一人が理解。調剤薬局との連携		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを取り入れ洗濯たみ、食器拭き簡単な調理の手伝いをさせていただく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を積極的におこなう外でのおやつや散歩をおこなう		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本所持されないように家族に依頼する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用許可や手紙を書かれた時、郵便局へ同行		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに季節感のある調度品を制作し飾る。掲示板の活用。写真をたくさん掲示し会話の助けとする		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲のよい利用者がはなしあえるような席の配置。個々のお気に入りの場所やテレビ番組等を職員が理解していく		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度を置く。写真を飾る		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの取り付け安全確保。常に利用者様を見守り転倒のないようにする		